

平成30年度学校改革シンポジウムアンケート結果

日時：平成31年1月23日(水)

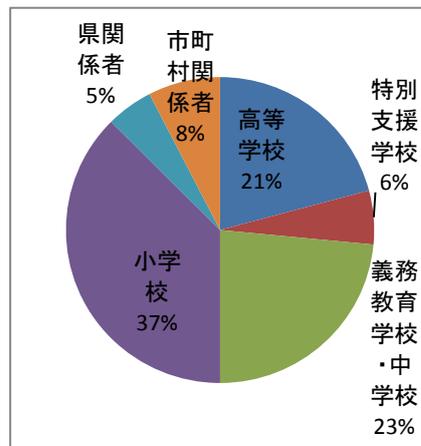
場所：ホテル熊本テルサ

回答：272人(参加者の約71%)

1 参加者について

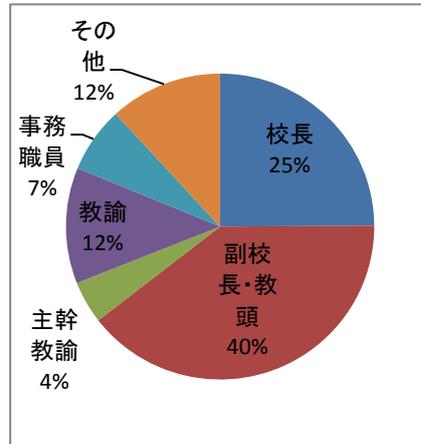
(1) 校種等

高等学校	特別支援学校	義務教育学校・中学校	小学校	県関係者	市町村関係者
55	15	62	99	13	20



(2) 職種

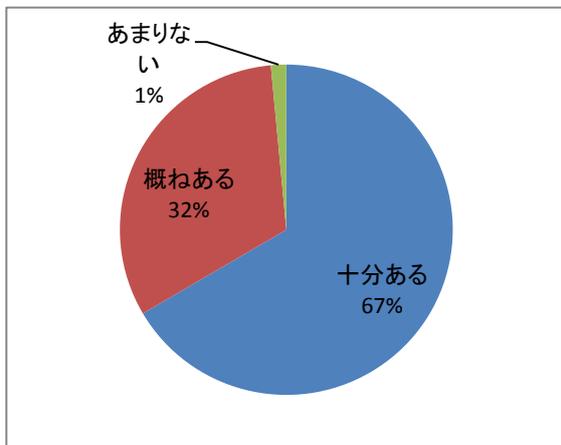
校長	副校長・教頭	主幹教諭	教諭	事務職員	その他
61	97	11	30	17	29



2 本日のシンポジウムについて

(1) 【講演】先生の幸せ研究所 澤田代表 〈有用感〉

十分ある	概ねある	あまりない	ない
179	86	4	0



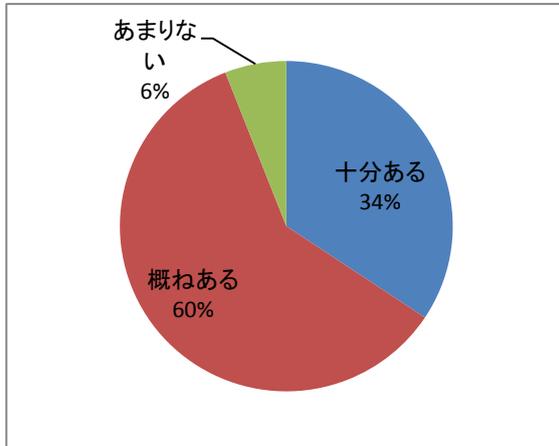
〈意見・要望・感想等〉

- わかりやすい言葉での説明で、理解が深まった。職員へかける言葉のヒントを得た。
- 「職員一人一人の残業内容が異なる」という話をもとに、職員のモチベーションを下げずに精査しながら取り組んでいきたい。
- 何のために働き方を見直す必要があるのか、職員と語り合いながら、自校にできる改革を進めていきたいと思う。
- 市町村教育委員会がすることも教示いただいたので、早速取り組んでみようと思った。
- 教師である前に社会人、家族の一員として時間を確保し、メリハリをつけたライフワークの大切さが再認識できた。
- 働き方見直しの必要性を職員が自分の言葉で言えること。これを実践する。
- ライフの4要素や元気な学校の3原則等、働き方改革に関わる考え方を分かりやすく提示いただいた。職員全体で安心して対話できる場を工夫していきたい。
- 久しぶりに取り組んでみたいと思えた話だった。
- 視点が明確で、知らない視点もあり、分かりやすかった。
- 時間が短かった。1時間半程度は聞きたい内容だった。

(2) 【事例発表①】阿蘇市教育委員会

〈有用感〉

十分ある	概ねある	あまりない	ない
92	160	16	0



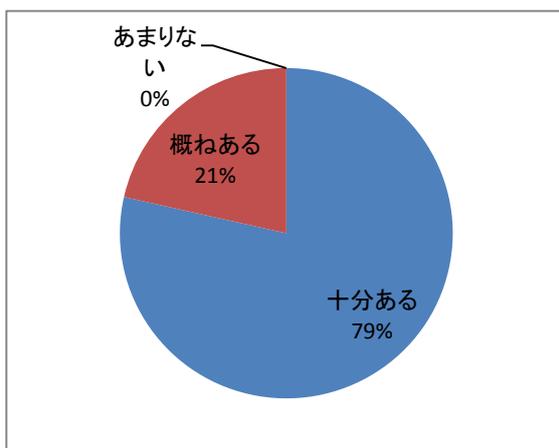
〈意見・要望・感想等〉

- ICT支援員の導入は、効果的であると思った。
- ICT支援員の利用は検討したい。
- 電子黒板が本校にも入る予定があり、ICT機器の活用力を職員がつけてもらう研修等の充実を図りたい。
- 教室内のICT機器の配置を統一させるなどのアイデアはどの学校でも使えると思う。
- ICT導入を教育委員会と連携して進めたいと感じた。
- 教職員の人事異動により、学校の取組状況が左右されぬよう、組織としての取組とすることが重要であり、参考になった。
- 服務監督権者である市町村教育委員会の役割を知ることができた。
- 教育委員会主導で各校が協働歩調で取り組んでいくことに意義、有効性があると思う。
- 市行政機関が中心となり、阿蘇市全体の学校が同じ方向で同じ業務改革に取り組んでいることがわかった。
- デジタル教科書の導入など、ICT活用が進んでいると感じた。
- 校務支援のICT利用、市としてのバックアップ（予算）の現状を具体的に示してあれば参考になったと思う。

(3) 【事例発表②】熊本県立熊本西高等学校

〈有用感〉

十分ある	概ねある	あまりない	ない
212	58	0	0



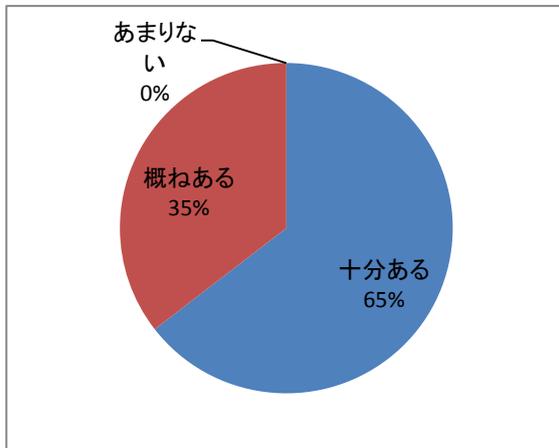
〈意見・要望・感想等〉

- トップダウンとボトムアップの取組は、スピード感のある思い切った改革であり、成果にもつながっている。
- 根拠と思考、実践が理解できる。見える化が明確である。
- 校長のリーダーシップの大切さが再確認できた。
- 変えることを楽しめる管理職でありたいと思った。
- 仕事の質を考えること、そのための管理職の在り方がよい学びとなった。
- 業務時間を洗い出している点は面白い。
- 捨てることへの勇気、スピード感を取り入れたい。
- 「年度途中でも改革はできる」「スピード感が重要」という言葉が印象に残った。
- 校務棚卸表は大変参考になった。これを作成するのも労力と時間が必要だと思うが、無理なく作成するコツも知りたい。
- 具体的な改革の道筋を話していただき、とても勉強になった。
- 全員参加の課題を希望制の課外へ転換されたことはすごいと思う。”量から質へ”の改革だと感心した。
- 校長が変われば学校は大きく変わることがわかった。

(4) 【協議】

〈有用感〉

十分ある	概ねある	あまりない	ない
160	88	0	0



〈意見・要望・感想等〉

- 仕事が面白いと頑張っている先生ほど過労死につながるという話が印象的だった。このような視点から話をしていくことも大切だと感じた。
- 更に詳しく話が聞けて良かった。特に阿蘇市教育委員会が示された評価指標について、HPに掲載されているということなので活用していきたい。
- 上手くいった話よりも上手くいかなかった話と上手くいかせるための工夫とかが聞けたのがよかった。
- 働き方改革もマニュアルはないので、自校の課題、必要なこと、できそうなことを一つ一つ明らかにしていかなければならないと感じた。
- 協議の中で、教育長の挨拶にもあった「何かヒントを持って帰ってほしい」につながる意見等を聞くことができた。
- 付箋を使った協議は、参加者の意識を高めるとてもよい手立てだと感じた。
- 実践のアウトプットで終わる研修会であれば疑問は推測で終わる。しかし、多数あった質問にパネラーがその場で語り合う時間は、大変有意義なものに感じた。

3 教職員の長時間勤務の実態改善及び子どもと向き合う時間の確保のための取組に関するアイデア等

- 文部科学省、教育委員会が主導する事業・取組を大幅に削減する
(例えば、モデル事業、新評価制度)
- 市町村教育委員会指定の研究発表会等、輪番で回ってくるもの等はなくす
- 教員数の加配(増加)
- 外部専門機関からの配置(常時)
- 部活動の完全週5日制の実施
- PTA(保護者)・同窓会や地域住民等へ負担軽減の理解・協力
- 学校徴収金等を扱う支援員(他県では導入されている)
- 会計業務は、教職員は担当しないで事務部ですべて行う
- 個人の電話対応でなく、業務用電話で保護者の対応は行う
- 教師一人一人の意識改革を促す、管理職の信頼ある対話活動
- 小中教職員の相互乗り入れ
- 行事削減をする場合、その評価をしっかりとって見直す。(かかった時間、費用、教師や生徒のアンケートなどを点数化し、基準点に満たないものはやめる、など)
- 働き方改革プロジェクトチームの設立、計画、呼びかけ
- 退勤目標時刻の見える化
- 職員会議資料は紙でなくパソコンで
- 年度当初の職員全員参加によるビジョンの共有
- ミドルリーダーから若手職員へのアドバイス
- Webアンケート集計システムを取り入れる
- 学校経営案等は毎年作成が必要だろうか?計画は必要だが…
- ゆうnetの全市町村への導入
- ICT支援員、校務支援員の導入
- 文部科学省が示すガイドラインを基に、現場の声を聞いて、県、市町村のガイドラインを作る
- 行政は、具体的に仕事で減らす項目を増やす
- 対外的行事の縮小